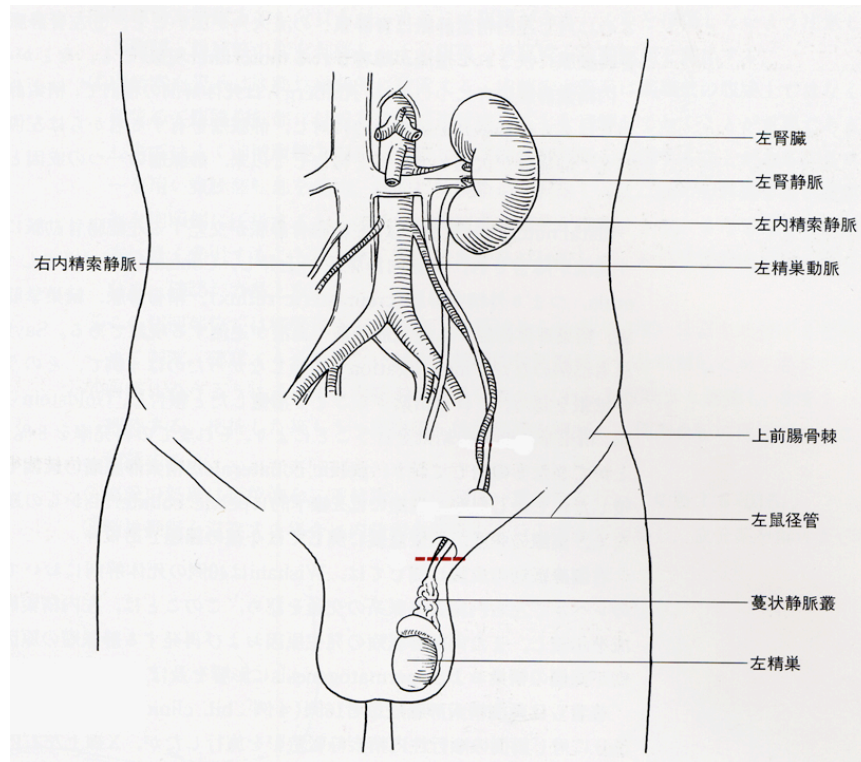


精索静脈瘤の手術を受けられる患者様への説明文書

精索静脈瘤とは

精巣から流出した細かな静脈（蔓状静脈叢）は次第に合流して内精索静脈となります。この内精索静脈を血液が逆流して、蔓状静脈叢に血液がうっ滞したのが精索静脈瘤です。精索静脈瘤は男性不妊の原因になると一般に考えられています。その理由は、①精索静脈瘤が男性不妊症の患者さんに多いこと、②精索静脈瘤がある男性不妊症の患者さんに精索静脈瘤の手術をすると精子の数や運動率が良くなって子供を授かる方がいらっしゃるからです。また、精索静脈瘤は健康には影響しませんが、陰嚢の不快感や痛みをきたすことがあります。



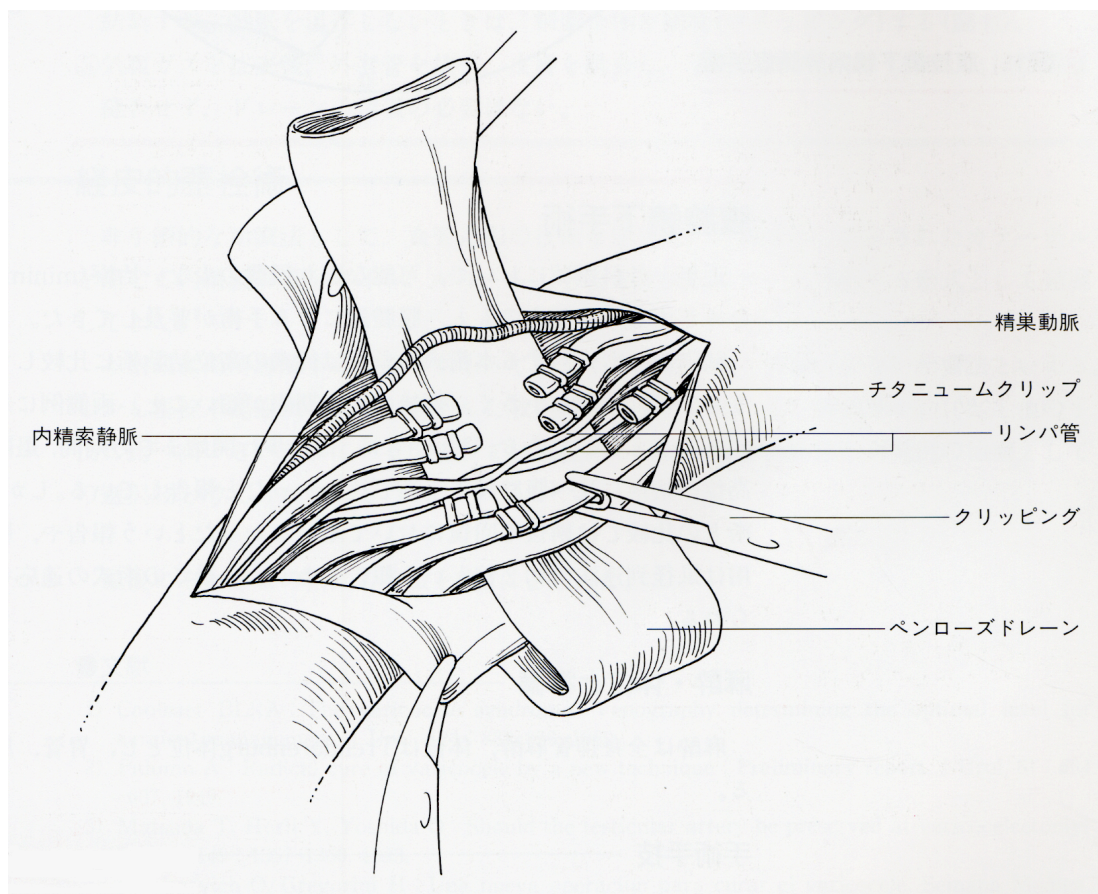
精索静脈瘤の手術について

内精索静脈を血液が逆流するのが精索静脈瘤の原因とされております。この内精索静脈を糸で縛った上で切り、逆流しないようにするのがこの手術の原理です。では精巣から血液が流れ出なくなるが大丈夫かと疑問に思われる方もいらっしゃると思いますが、精巣から血液が流れ出て行く血管は他にもあり、問題ありません。

精索静脈瘤の手術には、血管を鼠径管より上で切断する高位結紮術と、鼠径管より下で切断する低位結紮術がありますが、当科では低位結紮術を行っております。（図参照）その理由は①低位結紮術の方が、再発が少ない、②陰嚢水腫の合併が少ない、③創が小さく痛みも少ないからです。さらに、当科では手術用顕微鏡を用いており、動脈、リンパ管を温存でき、確実に静脈のみを結紮しますので術後陰嚢水腫の頻度が低く、術後の静脈瘤持続・再発も少ないです。

手術は全身麻酔で行い、手術時間は左右とも手術を行うと約4時間です。手術直後は痛みのため少し歩きにくいですが、通常は手術の翌日に退院可能です。

・男性不妊症で精索静脈瘤手術を行った場合、手術後約半数の患者さんで精子濃度または運動率の改善が見られます。



合併症

- ①痛み：通常は手術後数日で軽くなりますが、時に数ヶ月にわたり痛みが続く事があります。
- ②出血・感染：まれに再手術が必要になることがあります。
- ③精索静脈瘤の持続・再発：手術を行っても精索静脈瘤が消失しなかったり、手術後いったん消失した精索静脈瘤が再発することがあります。（数％）
- ④陰嚢水腫：手術後、精巣の周囲にリンパ液が溜まり、陰嚢が腫れることがあります。（数％）

その他、特に説明した内容

(1)

(2)

以上の点について、患者様に十分説明しました。

平成 年 月 日

説明医

以上の点について説明を受け、よく理解し、手術に同意します。

平成 年 月 日

患者氏名

患者家族氏名